

かわにし



小出特別支援学校川西分校 学校だより 6 平成28年9月1日 (木)

相模原市殺傷事件に対する学校の安全と取組について

校長 高橋 淳

夏休みが始まったばかりの7月26日、相模原市の障害者施設で残虐なる殺傷事件が起きました。犠牲となった方のご冥福と負傷された方のご回復を心よりお祈りいたします。併せて、立場の弱い者に危害を加え排除するという、許すことのできない、強い強い怒りを感じております。

当校では、事件の概要を確認して、学校の安全対策を以下のように取り組みました。

- ① 単独通学生全員に、防犯ブザーを貸与し携帯させること。
- ② 職員による不審者対応訓練を見直し、凶悪犯が侵入することを想定して、警察の協力を得て生徒の安全確保や犯人制圧の仕方などの訓練を実施したこと。
- ③ 地元警察に不審者情報の迅速な連絡と学校近辺のパトロールを要請したこと。
- ④ 来校者の確認を確実にを行うよう、川西高校と共通理解を徹底したこと。
- ⑤ 始業式の校長講話で、事件のことやこれからの生活で不安なことがあれば先生やお家の方にすぐ相談すること。全力でみんなのことを守っていくこと。そして、これからも社会の中で堂々と生きていくことを伝えました。

社会にこれだけ大きなショックを与えた事件であることから、まだまだ不安はぬぐいされないこともあります。今考え得る手立てを急ぎ実施し、生徒の安全を図っていきたくて考えています。保護者や関係者の皆様には、ご理解と今後もさらなるご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、今回の事件で安全対策の他に、もう一つ大きな課題があると考えています。それは、障害のある人たちの社会参加が委縮してしまうことです。今年「障害者差別

解消法」が施行され、ようやくわが国でも社会全体で障害のある者もない者と一緒に暮らす共生社会を目指す動きが始まり、当校も「社会と関わりながら生きていく力の育成」に全力で取り組んでいるところです。そして、地域の多くの方々のご理解とご支援をいただき、生徒達は明るく元気に社会と関わりながら学んでいる真っ只中であります。

事件の犯人は、元施設職員を経験しながら、なぜこのように歪んだ異常な考えに陥ったのでしょうか。まだ真相は明らかになっていませんが、自分の狭い価値観の中で十分に理解もせず、勝手に人間の価値を決めて狂気な犯行に及んだように思われます。もっと子供の頃から障害のある人と交流をもち、正しい教育と認識と協働感を育てていれば、このような恐ろしい事件は起こらなかつたかもしれません。

これからの社会は、少子高齢化の時代となり、今後は障害のある方、高齢者、文化の違う外国の方など、多様な人々と協力・協働していく社会になると言われます。それぞれを尊重し合い、多様な人々とどうすれば一緒にやっていけるかを考え出し、新しい価値観のもと次世代の社会を創っていかねばなりません。

当校では、事件に対する安全対策はもちろんでありますが、みんなが同じ価値ある大切な人間である社会を築いてくれるよう、今後も川西高校さんとの交流をはじめ、地域社会に飛び出し堂々と活躍する活動を進めていきたいと考えております。保護者や関係者の皆様には、重ねてご理解とご支援を賜りますようここに深く深くお願い申し上げます。